もっといきいき健康に！地域がつながる医療と介護を目指して

帰巌会

ご自由に
お持ち帰りください

かわら版

2022.10.1
October
vol.76

上田原河川公園にて（豊後大野市三重町）

コンテンツ

巻頭言

豊肥地区でみえ病院が行う救急医療 …… 2
総合診療専門医としての役割 …… 3
介護老人保健施設「泉の里」の重症者対応の体制づくり …… 4
栄養管理と日々の気づきがもたらす効果 ーみえ病院配食サービス …… 4
リレーインタビュー 帰巌会 車両管理について …… 5
襷～たすき～ 手作りハム工房 義（よし）ハム …… 5
郷土の歴史 …… 6
元気な地元クローズアップ／時事寸感 …… 6

巻/頭/言
ごあいさつ

社会医療法人帰巌会理事長
松山　幸弘

秋の訪れと共に漸く終焉の兆しが見えてきた新型コロナウイルス第7波ですが、県内では未だ数百人程度の新規感染者が発表され続けています。やや少ない数での定常状態が続くのかこのまま終息へと向かうのか注視しながら今夏（南半球では冬季）オーストラリアなどで報告された新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行ツインデミックに備えていく必要があるのでしょう。これまで通りの感染対策を行いつつ新たに開始されたオミクロン株に対応した新型コロナウイルス2価ワクチンとインフルエンザウイルスワクチンを並行して実施していくことになります。帰巌会ではみえ病院、臼杵病院ともに中等症までの新型コロナウイルス感染者に対応できる病床をそれぞれ確保いたしました。9月末までに各病院とも数名の患者さんを受け入れ運用を開始しています。

昔から秋といえば運動会と昭和生まれの私は思っていましたが、最近は春に運動会を行う学校も多いと聞きます。理由は10月開催に向けて練

豊肥地区でみえ病院が行う救急医療

みえ病院救急科部長　奥山　英策

みえ病院は、開院にあたり、前身の岡本病院から〝帰巌会〟の名を引き継ぎましたが、それは、みえ病院は「豊後大野の土に帰る」という岡本病院の理念を受け継いだ、という意思表示だと聞いています。その後、2010年の県立三重病院閉院に伴い、豊肥医療圏の救急医療の空白を埋めるべく、みえ病院は一次救急医療機関（軽症かつ緊急性が低く、入院の必要がない帰宅可能な患者さんに対応する救急医療です）から二次救急医療機関（地域の救急患者さんの初期診療と、重症患者さんへの入院治療・手術などを行います）に病院機能を上げ、また、循環器内科・血管外科・救急科などの救急部門の診療科拡大や、急性心筋梗塞に対するカテーテル治療や大動脈瘤に対する手術の開始、更に救急外来（ER）の大改造など、内容の拡充を図ってきました。別の言い方をすれば、現在のみえ病院は、「回復期・在宅期医療」と「急性期医療」を両輪として活動しているということです。

最近、あちこちでSDGs（持続可能な開発目標）という言葉を耳にします。自分なりには、『環境破壊』『戦争』『貧困』など、現在世界中で起きている様々な問題が解決され、今後も人類が地球上で安心して暮らし続けるために、国連が示した17の目標」と、理解しています。規模はまるで異なりますが、みえ病院なりのSDGs「『高齢化』『人口減少』『孤立化』『救急医療の地域格差』など、豊肥医療圏の様々な問題が解決され、今後も豊後大野の皆さんが安心して暮らし続けるために、みえ病院が掲げた目標」は、❶豊後大野に居ながらにして、大分市内と遜色ない急性期医療を提供する、そして、❷今も昔もかわらない「最後は、豊後大野の土に帰る」、です。因みに、「回復期・在宅期医療」に関しては、大分市内より寧ろ豊後大野の方が充実していると自負しています。

しかし、現在、みえ病院SDGsの前には大きな壁が立ちはだかっています。それは、①コロナウイルス疲れ、②みえ病院自体の高齢化と人口（職員）減少、さらには、③2024年問題です。2024年問題とは、働き方改革関連法によって、2024年4月1日以降、年間時間外労働時間の上限が制限されることによって発生する、様々な問題の総称のことで、これらの問題は、余りにも大き過ぎて、到底みえ病院だけでは解決できるものではありません。

この様な状況下で、ヒントになるかもしれないと思っていることがあります。それは、間も無く運用が開始される〝コードバンブルビー〟という豊肥医療圏独特の試みです。これは、豊後大野の山中で、エピペン（アドレナリンの自己注射器です）を持参していなかった方が、作業中に蜂に刺されてアナフィラキシーを発症し、辛うじて心停止前に病院に搬送されるという事案が発生したことを受けて思いついた試みです。蜂毒によるアナフィラキシーの場合、15分で死に至る症例も報告されています。このため、傷病者に可及的速やかにアドレナリンを届けるため、119番通報時、「蜂に刺された」「何かしらの症状がある」「エピペンを持っていない」の三つのキーワードが揃った場合、消防署が〝コードバンブルビー（蜂🐝刺されによる緊急事態、つまりコードブルーから連想してネーミングしました😊）〟を発令し、救急車が出動すると同時に、現場最寄りの病院／診療所／クリニックに救急車とは別動隊のピックアップ車両が出動し、それに医師が飛び乗って現場に急行し、傷病者にアドレナリンを注射するという取り組みです。このアイデアを、豊肥医療圏の開業医の先生達に最初に御披露したとき、きっと断られるだろうなと思っていましたが、意外にも、あっさりと了承していただけました。この時、チラッと「他にも、豊肥医療圏の救急医療のために、開業医の先生達と一緒にできることがあるのではないか」、という考えが頭をよぎりました。

以前、〝日本の中空構造〟という、普段では気に掛けることすらない〝見出し〟が、何故かふと目に止まり、読んだことがあります。日本の本質は〝中心が空っぽ（「突出したリーダー的中心人物はおらず、その場の空気に任せる」「御神輿モデル（誰が運んでいるのかわからないが何となく事態が動いていく構図）」）〟であり、それは、日本の神話から読み取ることが出来る、というものでした。イザナギとイザナミの子供に、アマテラス（太陽神）とスサノオ（海神）がいますが、この名前を聞いた事がない方はほとんどいないと思います。しかし、アマテラスの弟（ということはスサノオの兄）にツクヨミという月神がいる事は、ほとんど知られていません。同じ様な事が他にも見られます。海幸彦（ホデリ）と山幸彦（ホヲリ）は知っていても、その間に、ホスセリという次男がいる事は、ほとんど知られていませんし、「天地初発の時、高天の原に成れる神の名は、」で始まる古事記の冒頭で、タカミムスヒとカムムスヒ、そして、アメノミナカヌシが紹介されますが、やはり、アメノミナカヌシはこれ以降、全く出て来ません。この様に、日本神話の中では、三兄弟の真ん中が、何故かほとんど登場しません。この様に、日本の構造は「中心に強力な力があって、その力や原理によって全体を統一するではなく、中心が空っぽであっても、全体のバランスがうまく取れる」構造だそうです。因みに、この真ん中の神様はどこで何をしているのか？実は、影で仲裁役を演じているという、説もあるらしいです。アマテラス（太陽神）とスサノオ（海神）は非常に仲が悪く、しょっちゅう喧嘩をしていたらしいですが、この二人が本気で喧嘩をしたら、凄惨な状況になっていたはずです。しかしそうならなかったのは、実は、影でツクヨミが、「まあまあ二人とも、ここは一つ頭を冷やして。二人が大喧嘩したら、巻き込まれた人間達はひとたまりもないでしょうが。」と、間を取り持っていたのかと思うと、何となく人間ぽくて、愛情が湧きます。

元来、豊肥医療圏に根付いて患者さんに寄り添っている医師会（開業医）の先生達との連携を模索する中、コードバンブルビーの運用がすんなり決まったのも、実は、神話の時代から豊後大野に棲みついている、真ん中の神様のお計らいかもしれません。いつの日か〝豊後大野からの逆襲〟と言われる様な、豊肥医療圏の医師が一団となる独自の仕組みを作る事が、みえ病院SDGsの唯一の解決策で、それが、豊肥医療圏でみえ病院が担うべき、救急医療の役割だと思います。

習が行われる9月は気温が高く熱中症の危険を避けるためや、台風が来るために十分な練習が出来ないということらしいです。では何故これまで10月に行われていたかについては1964年に行われた東京オリンピックが10月10日開催されたことに端を発しているようです。私たち昭和生まれは10月10日といえば「体育の日」として固定された休日であり学校ならずとも地区の運動会などが行われていたことを記憶しています。私の誕生日と運動会が重なることが多かったため誕生日の夕食が運動会のお弁当と同じメニューであったことが思い出されます。私自身は大好きな鶏のから揚げが同じ日に2回も食べられるのでとても嬉しかったのですが、後に母親から「面倒くさいからまとめて作ってたんでえ、ごめんなあ」と言われることがありました。私にしてみればラッキーな一日を過ごしていたので親の気持ちとは意外なものだなあと思ったものです。

運動会の他に秋の楽しみといえば美味しい食べ物ですね。豊後大野市ではやはりカボス、栗、葡萄、新米でしょうか。農作物が豊かなこの地域では溢れるばかりに実りを迎え誘惑が多くなります。朝晩は涼しくなり過ごし易くはなりますが、油断して身体を冷やした結果、風邪をひいたりお腹を壊ししやすい季節でもあります。美味しい季節の食べ物を適度に頂き体調を整えるために身体を動かして来るべき冬に備えましょう。

総合診療専門医としての役割

みえ病院専攻医　竹茂　彰子

「総合診療専門医」はここ10年程で厚生労働省が専門医としての制度を整え誕生しました。各科の専門性が高まり細分化されていく現代医療のなかで、特定の臓器や疾患に限定せず、多角的に診療を行う部門として必要性が少しずつ唱えられてきました。総合診療医は、まず病気にならないように、疾患予防的な観点をもって診療にあたります。そして病状悪化の際には、あるところまでは適切な初期治療を行う役割として、各科領域の分業、専門治療の効率化に役立ち、診断から治療までスムーズな流れを作り出す役割を担います。一方で、「診断」という点では、深く専門性を持とうと意識しています。外来には、発熱や食欲低下、全身倦怠感、脱力感など、どの臓器が原因となっているのか、何が問題なのか、すぐに診断のつかない患者さんがいます。例えば、下痢をしているので消化器内科だと思ったらそれはホルモンの異常で、内分泌科が専門であったりすることがあります。また、帯状疱疹（たいじょうほうしん）という病気は、皮膚科疾患とされていますが初期は皮膚に症状を表さず、胸が痛い、というような症状だけで現れることがあります。総合診療科は、診断がつかない間、不安を抱える患者さんに、考えられる疾患や経過を伝え、適切な科への案内を行う役割を担います。複雑な疾患では、診断がつくまで、経過の振り返りや検査を追加し最短距離での診断を目指しつつ、患者さんの全身状態を整えるために治療を開始します。まとめると、患者さんにとっては、とりあえず相談できる「なんでも屋」だと思っていただければと思います。

私のみえ病院での勤務も、7月から3か月が経過しました。前に勤務していた病院は急性期病院だったため、状態が落ち着いた安定期の患者さんは、回復期病棟、慢性期病棟がある病院や施設へ移動していただく必要がありました。しかし、その流れがスムーズにいかないこともよくありました。転院を考えることは、その患者さんの状況にとってベストな環境に移動することですので、そこを待つ時間に、もどかしさを感じることもありました。一方、みえ病院は、帰巌会グループとして急性期から回復期、慢性期、包括ケア病棟、近くには介護老人保健施設ももちます。適切な場所で適切な量のリハビリや治療を受け続けながら次の場所への移動を待機できる環境があることはとても魅力的です。また外来をしている中で、食事を準備することが困難となってきているご高齢の患者さんに出会い、生活調整の一歩として配食サービスを案内したこともありました。訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、送迎サービスと合わせて、このようなサービスの提供ができることは、患者さんのご家族を含めた、生活すべてを見据えた全人的な仕組みであり、日本の高齢化医療において、整備されるべき大変重要な点だと感じています。

最後になりますが、私は日本で最も人口の少ない鳥取県に生まれ育ちました。三重町から大分市内へ続く豊肥本線の電車からの眺めは地元そっくりで、初日は、実家に帰ってきた気持ちでした。小児科医をしながら成人も含めて地域の患者さん、みんなを診療する「なんでも屋」をする父をみて育ったこともあり、総合診療の道を選びました。みえ病院には10月まで勤務させていただきます。短い期間ではありますが、一人ひとりの患者さんに「もしもまた何か困ったことがあればここで相談しよう」と思っていただけるような診療、様々な角度から患者さんが望む生活のお手伝いができるような診療を、と考えていますので、気軽になんでもご相談いただけますと幸いです。

竹茂　彰子医師　国立国際医療研究センター総合診療専門研修プログラムに基づき、地域で展開される在宅医療等について学ぶため、7月から10月まで帰巌会みえ病院にて研修中

介護老人保健施設「泉の里」の重症者対応の体制づくり

看護師長　波津久 五月

介護老人保健施設とは、医療、看護、介護、リハビリテーションから栄養まで、さまざまな専門職が多職種協働で、要介護状態、要支援状態にある利用者、家族が安心して自立した生活が続けられるよう支援する施設です。

入所の対象となる方は、

- 要介護認定（要介護1～5）を受けた方。
- 病状が安定していて入院治療の必要がなく、リハビリテーションを必要とされる方。

となっています。しかし、介護老人保健施設（以後老健とする）の現状として、

- 利用者の高齢化
- 認知症高齢者の増加
- 世帯主が65歳以上の単独世帯や夫婦のみの世帯の増加
- 要介護率の急速な増加
- 複数の疾患を抱えての要看護率の増加

があり、その入所者に対して、現在、医師2人、看護師8人、介護士19人で入所者の生活を支えています。

日々の業務は多忙を極め、夜勤の休憩時間も確保できない状況でした。

老健での介護のやりがいを感じ、夜勤での休憩を確保でき、身体的な負担も軽減できるような職場にしたいと考えているところへ、船田本部長からの「今いる職員が、10年後も働ける職場にしなければ」という助言もあり、今回の体制づくりを手掛けることができました。

体制変更にあたり、3階のユニット型（10床、10床）はそのままで、2階の短期入所（10床）と多床室（28床）とワンフロアを基本的な考えとしました。そこで

- 日勤帯に入退所が集中するショートに、日勤勤務のみの、介護士を配置する。
- 短期入所、多床室と分けず、夜勤勤務者（16：30～9：00）2名勤務する。（2階フロアに、夜勤可能な介護士の配置を増員する）
- 夜勤勤務者（15：00～0：00）1名を新たに配置する。（遅出の業務を行い、21：30～それぞれのフロアの休憩フォローを行う）

9月から、新しい体制で動き始め、今後、評価をしながら、さらに体制を変えていく予定ですが、現時点でも、夜勤で必ず1時間の休憩がとれるようになり、身体的な負担が軽減されているという意見が聞かれています。今後、人員増加があれば、当直夜勤者を含めた4人での夜勤体制も検討しています。体制をより良いものに変えていくことで「今いる職員が、10年後も働き続けられるような老健」にできるのではないかと考えています。

栄養管理と日々の気づきがもたらす効果

みえ病院配食サービス

管理栄養士　和哥山 桂子

在宅生活を維持していくうえで、欠かせないもののひとつとして『食事の確保』があげられます。帰巌会（みえ病院、臼杵病院）では「食事の用意ができない」「買い物に行く事ができない」「日々治療食の継続が困難」といった方々に配食で食事（昼・夜）を提供しています。

現在利用されている方は一人暮らしや高齢者世帯の方が多く、他に体調維持や管理の為に治療食が必要な方もいらっしゃいます。また配食サービスの重要な役割として欠かせないのが安否確認です。配食利用がきっかけとなり体調の回復や健康維持、生活状況の改善など様々な効果をもたらしています。

治療食提供後に体調が安定し配食を卒業

入院中にインスリン療法や内服薬の管理が必要になったAさん。栄養指導時、「退院後の食事管理が不安」の相談を受け、配食サービスの利用を開始されました。1回の食事量や塩分などを見て味わって確認して頂き、日々の食事で気を付けるポイントを提案しました。その後、徐々にステロイドの量も減り、血糖が安定したことでインスリンも中止となったと報告がありました。安定した食事を摂る事ができるようになり配食利用は終了。その後は自己管理ができています。

配食利用をきっかけに

ご近所付き合いの少ない地域でご主人と2人暮らしのBさん。配食開始当初より足や腰の痛みの訴えがありましたがいつも同じ場所に座り配達を待たれていました。自宅内は物が溢れており生活が困難な様子にみえました。関係部署間で情報を共有し（救急搬送される可能性を視野に入れ）、日々の配達時には直接声掛けを行い、何かあれば素早い対応ができるよう準備をしていました。その後、ご主人からの介護困難の相談を受ける過程で入院になりました。入院時には在宅生活の様子を提供し、その後の退院支援に繋げることができました。退院された現在も配食を利用中ですが、会う程に笑顔が増えているように思えます。

お食事を渡しながらいつもと違う「気づき」が利用者の方はもちろんご家族の小さな助けになってほしい、それが日々の励みです。変わらぬいつもの日常が送れるように今日もお食事を配達しています。

リレーインタビュー 43回目

帰巌会　車両管理について

本部 施設課長　羽田　慶治

社会医療法人 帰巌会で使用している車両管理を、当時の総務担当より引き継いだのが2016年(平成28年)の7月でした。その頃の車両管理台数は57台で、毎月約15台位の車両が、車検や定期コンディション点検の対象となっていて、各部署の担当と打合せを行い点検日を決めて対応をしていました。現在では帰巌会の職員数も倍近くも増えている事から、車両管理台数も120台以上となり、毎月約30台以上の車両が点検対象となっています。

私が担当してる車両管理の仕事内容ですが、毎月の車両点検の状況管理と各リース車両の更新業務及び業務車両の事故対応を行っています。毎月の車両点検には、車検はもとより法定6ヶ月や12ヶ月点検及び定期的での簡易点検(コンディションチェック)があり、地元の協力整備工場の方々に点検して頂いております。リース車両の更新では、当初は低年式で走行距離の少ない車両との入替を検討していましたが、4年程前より自動車メーカーの安全装置の技術が格段に上がった事もあり、新車との入替を行う様にしております。やはり業務車両であることから、患者さんや利用者さんの送迎業務や訪問業務が安心で安全な運転が出来ればとの思いもあります。以前に比べて業務中での突発トラブルも、故障減少につながっています。帰巌会の車両事故についてですが、大小の事故が年間約40件弱発生しています。車両についた些細な傷でも必要と判断した際は、自動車事故報告書の作成を行い、最終的に発生した各部署でも保存する様にしています。運転手が起こした事故や貰い事故が、他の運転手でも同じ場所で起こさない様にする事が目的です。昨今、自動車にドライブレコーダーを搭載している車を見かけますが、皆さんの安全運転意識が上がって来ているように思います。10月1日から道路交通法よって、帰巌会も該当する安全管理者選任事業所では、アルコール検知器による検査の義務化が施行されます。各部署で使用している業務車両が今日も安全に運用される様に願いながら、これからも業務を行っていきます。

礫(たすき)

豊後大野編 File 2

手作りハム工房　義(よし)ハム

代表　首藤 義文さん

今回は「手作りハム工房・義ハム」代表の首藤義文さんをご紹介します。

●師匠との出会い　首藤さんは大学で畜産を学び関東で就職後地元豊後大野市へ戻るのですが、当時10年間経営していたハム工房の後継者を探していた方がいました。その方が後の師匠になる「ハム工房すどう」の須藤さんでした。思い起こせば首藤さんにとって須藤さんのハムは高校生の頃から家族で慣れ親しんでいた食材でした。出会うべくして2018年9月から技術伝承の研修がスタートしました。

●地元で作る意義　2019年4月に「義ハム」は1人立ちしますがやればやるほど、知れば知るほど師匠の偉大さにぶつかる毎日。師匠が自分に伝えようとしてくれた基本技術や思いを忘れることはありません。それは素材に対するこだわり。地元で養豚されているブランド豚「米の恵み」は餌や環境にこだわり育て上げ、オレイン酸豊富な納得の肉質になります。地元なので冷凍ではなく冷蔵移動が可能となり新鮮な肉が保たれるのです。製品にしたとき、フライパンで焼いたとき、味の深みを想像しながら首藤流をミックスさせる日々です。2年前からウインナーを作りに取り組み、学生にソーセージ作りの体験学習も行っています。

●これから　「1人では限界を感じています。チームで組み、地元に根づいた物づくりをしていきたい。お土産は「義ハム」と地元の人に認識してもらえること」を胸に今日も豊後大野からメッセージを送っている首藤義文さんです。

(インタビュアー　ハシモト)

商　　品：ロースハム・ベーコン・プレスハム・ボロニアソーセージ・豚ヒレ燻製 など　着色料・増量剤・保存料不使用

販売店舗：ちとせや緑茶・清川ふるさと物産館夢市場・藤居醸造

・ふるさと納税の返礼品、一部生協

大分県豊後大野市三重町内田1615
電話番号/090-5924-9265
営業時間・休み/不定期

郷土の歴史

豊後大野市ジオガイド
後藤　宕子（ひろこ）

「岩戸通船（いわどつうせん）」

藩政時代、清川は岡藩、中川候の支配地域であった。明暦二年（1656年）犬飼に岡藩の川港が建設され大分三佐港まで船を利用して、参勤交代や大阪まで物資を運ぶことに大変便利になった。

しかし、清川を含む緒方郷の物資は陸を利用するしかなく、険しい山道を人が担いだり馬を使って犬飼まで運んでいた。三代藩主中川久清は、犬飼から上流の岩戸までの通船を計画したが成功せず、その意志は十二代中川久昭に引き継がれたがこの時も又失敗に終わった。主な理由は岡藩岩戸の下流5キロメートルの処に臼杵稲葉藩の領地が存在していた為であった。

当時、川の真ん中が領地の境と決められていたが大野川の左右に臼杵領があったため岡藩の舟の運行を妨げていた。明治四年、廃藩置県が断行されると、翌年犬飼から岩戸まで約25キロメートルのしゅんせつ工事が始まった。この航路は急流が多く難工事といわれたが総工費1万5000円、明治六年九月に終了した。積み荷の主なものは米、大豆、麦類、木材などであった。この航路の開削は経済的な利益を清川の住民にもたらした。

岩戸港が出来ると物資の集散によって牧口市も大きな繁栄をとげた。明治四十年ごろから大正時代の初期、牧口市場には宿屋5軒、料亭4軒、飲食店16軒、馬車屋4軒、洋服店2軒、造り酒屋2軒が数えられている。

緒方郷を中心とする生産、消費諸物資が岩戸港で船積み、船おろしされ郷内各地に運ばれた為、牧口市場がその起点となったと考えられる。又、岩戸には大野川通船会社が設けられて、諸物資集散の事務を取り仕切っていた。これ等の事柄は岩戸公民館の敷地内に建てられている岩戸通船の碑に詳しく記されている。

元気な地元 クローズアップ

森のcafeゆるり

「あ～、ゆっくりしたい」そう想ったら、一人でふらっとゆるりへ。

白髪頭のマスターと綺麗(?)な奥さんが「いらっしゃいませ」と静かにお出迎え。

ソファー席にゆったり座り、ゆるやかな音楽を聴き、コク深い珈琲でリラックス。

「さ～、明日から頑張ろっと」そう想える空間をご提供すべく、従業員一同（夫婦二人ですが）、皆様のご来店心よりお待ちしております。

森のcafeゆるり

お問い合わせ先
〒879-7141
豊後大野市三重町秋葉632-1
☎0974-22-7811
営業時間：11:30～16:00(L.O.)
定休日：火・水曜日

時事寸感

もう数日もすれば、安倍元総理大臣の「国葬」が執り行われる予定だ。国葬のような本格的な葬儀の中で、映像として記憶しているのは、アメリカのケネディー大統領や昭和天皇の葬儀くらいで、意外に少ない。昭和天皇のときは休日になったが、私が勤務していた医療法人の労組が「大喪の礼反対、休診せずに通常業務を」と妙な要求で騒ぎ、辟易したことを思い出す。吉田茂元総理大臣も1967年に国葬とされたらしいが、不思議なほど憶えていない。

話は変るが、録画したままになっていた、NHKスペシャル「ビルマ絶望の戦場」（8月15日放送）を、つい最近視聴した。昨年はインパール作戦自体の無謀さがテーマだったが、今年は1944年7月の作戦中止決定からビルマ撤退（終戦）までの約1年間に、上記作戦での「戦死者」3万に加えて更に13万人が「戦死」したことを伝えていた。ビルマ方面作戦には20万が動員され、インパール作戦も含め80％以上（16万）が亡くなった勘定になる。この異様ともいえる惨状について、イギリス軍の現地司令官の言葉が印象的だ。「日本軍指導者たちには根本的欠陥があるように思える。それは『道徳的勇気の欠如』である。自分たちが失敗したことを認め、計画を練り直す必要があることを認める勇気がないのだ」と。

統一教会の登場で安倍国葬に反対する世論が日を追って増加し、とうとう反対意見が半分を超えてしまった。岸田さんの支持率もそれに引きずられるように下落している。その最中、9月19日、イギリスのエリザベス女王の国葬が粛然と行われた。弔問数も夥しい数にのぼり、棺に辿り着くまで30時間待ちとか、前代未聞の事態になった。知人でもなく、直接見たことも話したこともないのに、テレビ画像に見入り、なぜか目頭が熱くなった。この状況下、この雰囲気の中で、「国民に弔意も押し付けない　休日にもしない」という安倍国葬を強行するのは　一寸無謀な気もするのだが。

（帰巌会副理事長　榎本　祥文）

帰巌会 かわら版
〒879-7111　豊後大野市三重町赤嶺1250-1
社会医療法人帰巌会　■発行者／理事長 松山幸弘　■編集／法人本部
http://www.kigankai.or.jp/
tel.0974-22-2222